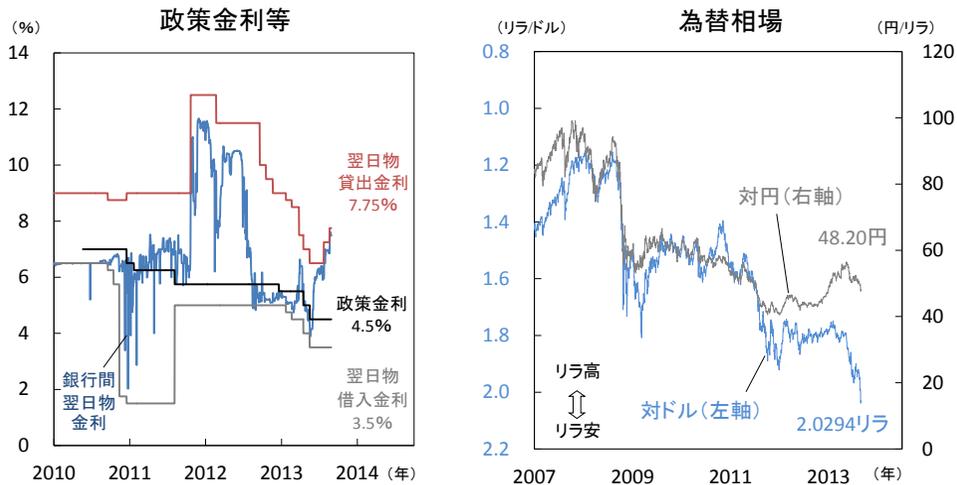


トルコ：シリア情勢が緊迫化する一方、中銀は新たなリラ安抑制策を導入か

【図1】シリア情勢緊迫化と中銀総裁の発言を受け、為替が急落(右)

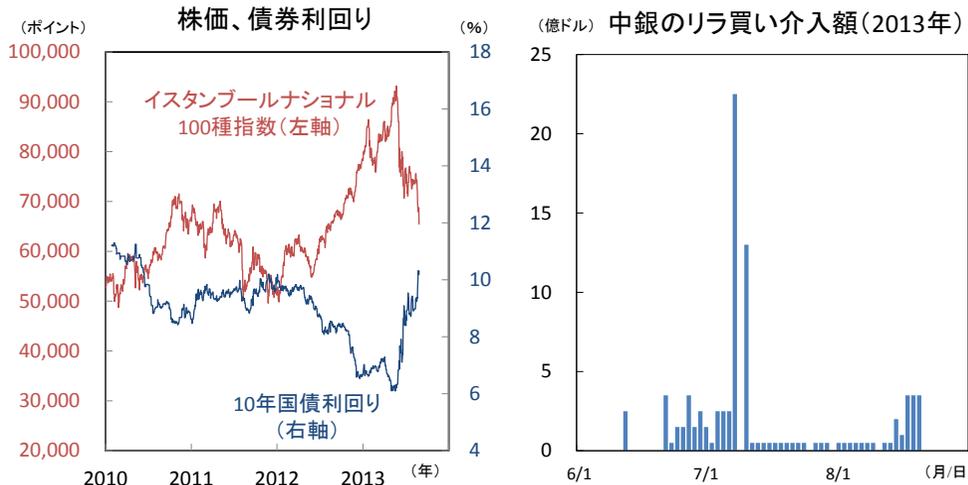


注) 左図の直近は2013年8月28日。右図の直近は同年8月29日日本時間午前9時。
出所) トルコ中央銀行、CEIC、Bloombergより当社投資情報部作成

リラが1ドル=2リラの水準を超えて下落しています。8月26日、米国のケリー国務長官がシリアの化学兵器使用について非難、米欧の軍事介入の可能性が高まっています。緊張の高まりは隣国トルコにも波及、リラ安を誘いました。

さらに8月27日、報道等によれば、トルコ中央銀行（以下、中銀）のバシチュ総裁は、テレビ局のインタビューに答え、7月23日（6.5%→7.25%）、8月20日（7.25%→7.75%）に連続して引き上げた翌日物貸出金利（銀行間翌日物金利の実質的な上限、図1左）を、これ以上引き上げないと述べたようです。この総裁発言は、更なる追加利上げを予想していた市場参加者に驚きを与え、リラ売りが加速。リラは対ドルで最安値を記録、足元1ドル=2.0294リラ、1リラ=48.20円程度で推移しています（日本時間29日午前9時、図1右）。27日の債券市場は比較的落ち着いていたものの株価は急落、イスタンブールナショナル100種指数は前日比9.5%安の65,519ポイントとなりました（直近の8月28日は65,452ポイント、図2左）。

【図2】通貨安抑制のために、リラ買い介入を積極化する可能性も(右)



注) 左図の直近は2013年8月28日。右図の直近は同年8月26日。
出所) Bloomberg、トルコ中央銀行より当社投資情報部作成

シリア情勢に対しての足元の市場の反応は、やや過剰感があり、その分、事態が収拾に向かうにつれ一定の反動が生じる可能性も高いとみています。他方、中銀は引き続きリラ安抑制姿勢を続ける予定ですが、総裁はこれ以上の利上げは有害と述べており（景気に配慮したものとみられます）、為替介入による通貨防衛にシフトしつつあると考えられます（図2右）。また内容は明らかにされていませんが、新たな相場支援策を導入予定で、総裁は、それは市場にとってサプライズとなるだろうとも述べたようです。総裁は、これらにより2013年末のリラ相場が「1ドル=1.92リラ」となっても驚かないし、10年債利回りは一桁台に低下するだろうとも明言したようです。今後の政策に注目が集まります。

シリア情勢や金融政策を巡る不確実性が解消するまで、リラは不安定な動きが続くそうです。しかし中長期的には、投資家のリスク許容度が回復すれば、トルコへの証券投資は再び活性化、リラは緩やかに反転するとみています。（末吉）

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はいくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。（作成基準日：2013年8月29日）
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問投資情報部の見解です。また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。